

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
腎臓内科部長 兼血液浄化センター長	坂口 俊文
腎臓内科 副医長	田村 渉
腎臓内科 医 員	玉置 瑛一朗
腎臓内科 医 員	和田 龍也
血液浄化センター 参事	河野 栄治
看護師	植田 くみ子
看護師	前中 公紀
看護師	岩田 奈緒子
看護師	高田 澄子
看護師	宮園 まゆみ
臨床工学技士	奥田 重之
臨床工学技士	町田 麻美
臨床工学技士	金口 優生
臨床工学技士	三角 定弘
臨床工学技士	川崎 勇司
臨床工学技士	平田 佳紀

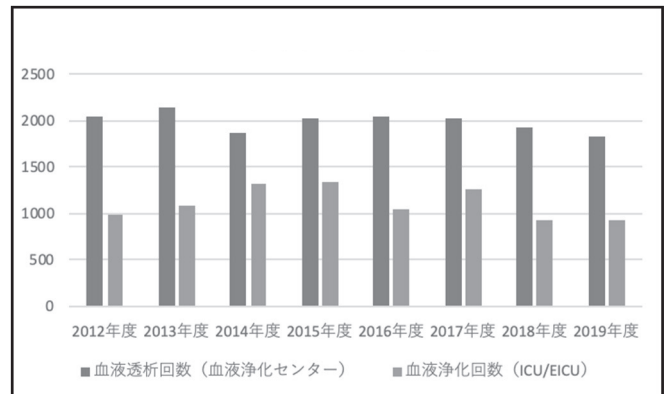
—概要—

血液浄化センターは慢性腎不全患者や急性腎障害に対する血液透析導入や合併症にて入院されている維持透析患者に対する血液透析を主に施行している。近年、高齢化に伴う動脈硬化や糖尿病を合併した患者の増加にともない、血液透析中に頻脈となったり、著明な血圧低下を生じる透析患者も少なくない。また、認知症を抱えた透析患者も増加してきているのが現状である。当センターではそういった透析患者に対応すべく、毎朝透析開始前にショートカンファレンスを施行して当日勤務のスタッフ全員で当日の透析患者の状態をできる限り共有し、合併症の生じない安全な血液透析を施行できるよう努めている。

血液透析以外には血漿交換やLDLアフェレシスも必要な症例に対して適宜施行している。腹膜透析患者の管理も透析室で施行しており、現在は4名の患者が月1回通院して加療されている。透析室以外にはICU/EICUにおいて急性腎障害を合併した重症患者に対して持続的緩徐血液浄化療法(CRRT)や血液透析、ECUMなども臨床工学技士の協力を得て施行している。

—実績—

血液透析施行回数	1,828回
血漿交換	10回
造血幹細胞採取(血液内科)	7回
骨髄濃縮(血液内科)	3回
ICU/EICUにおける血液浄化(CRRTを含む)	934回



—今年度の成果—

導入患者への事前訪問

3年前から始めた看護師、臨床工学技士による患者訪問は定着し、透析導入時の患者の不安軽減に寄与している。

フットチェック

3年前より透析導入時に両下肢を写真に収め、専用のノートPCにファイルメーカーを利用してデータ保存、管理している。いつでもスタッフ全員が入力、閲覧でき、データを蓄積、フットケアに役立てている。

バスキュラーアクセス超音波検査

透析に必要なバスキュラーアクセス(自己血管・人工血管)造設術およびPTA(経皮的血管形成術)は腎臓内科の医師が施行している。数年前から始めた臨床工学技士によるバスキュラーアクセス評価のための超音波検査は各人の技術が向上し、バスキュラーアクセス外来時は必ず施行している。エコーガイド下穿刺も臨床工学技士、看護師ともに習熟し、穿刺の難しい血管の穿刺も可能となった。

災害対策を見据えた近隣施設との連携

近隣の透析施設と交流を深め、完全に顔のみえる関係ができあがった。

—来年度への抱負—

透析導入患者への事前訪問は3年前より施行しており、効果をあげている。透析導入前だけでなく、もっと早い時期より外来において医師・看護師・臨床工学技士がチームとして将来透析が必要となる慢性腎臓病患者に関わり、腎代替療法(血液透析、腹膜透析、腎移植)について説明し、最適な医療を選択できるシステムを構築したい。